

## JACR委員会報告 [学術委員会]



### 安田 誠史 理事

高知大学教育研究部

西野 善一 金沢医科大学医学部公衆衛生学  
宮代 勲 大阪国際がんセンター  
祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科  
伊藤 ゆり 大阪医科大学研究支援センター  
森島 敏隆 大阪国際がんセンター

学術委員会の活動は、本協議会の前理事長と学術委員会前委員長を兼務された田中英夫先生の強いリーダーシップの下で拡充されました。田中先生の本協議会理事長退任後は、安田がショートリリーフ的な位置づけで委員長を務めています。学術委員会の現在の主な活動は、以下の3つの表彰制度の選考審査です。

#### ○藤本伊三郎賞\*

日本での地域がん登録の基盤整備とがん登録資料を活用する研究における開拓者のお一人で、本協議会の初代理事長もお務めになった藤本伊三郎博士のお名前を冠する表彰制度です。藤本博士とその後継者のお一人でられる花井彩博士からのご寄附を元手に設立されました。若手会員による国際がん登録学会など国際学会での演題発表を支援するトラベルグラントとして運用されています。毎年7月頃に募集が行われます。

#### ○学術奨励賞\*

がん登録の仕組みの整備から登録資料の活用まで、がん登録に係わる広範な学術分野における教育研究活動または技術開発において、一定の業績(本協議会学術集会での発表、および学術雑誌での論文発表)を有する、若手の会員を表彰する制度です。毎年12月頃に募集が行われます。

#### ○学術集会優秀演題賞

毎年6月に開催される学術集会での一般演題から、優秀口演と優秀ポスターを表彰します。地域登録、院内登録、学術領域、実践領域から偏りなく表彰されるよう配慮して選考します。

\*各賞の募集の詳細は本協議会ホームページをご参照ください。

平成28年から全国がん登録が始まり、届出もれがないがん登録が実現され、がん登録資料を用いる学術研究基盤の整備は飛躍的に進みました。しかし、研究成果発信を担う、がん登録領域の研究人材は不足したままです。学術委員会の活動は研究人材育成支援の活動とも重なります。まだまだ若手の域におられる他の学術委員、そして若手の育成に情熱を注いでおられる他の学術委員と一緒に、次代の研究人材の層を厚くすることに貢献できる委員会活動を進めます。

## JACR委員会報告 [国際交流委員会]



### 伊藤 ゆり 専門委員

大阪医科大学研究支援センター  
医療統計室

松坂 方士 弘前大学医学部附属病院医療情報部  
中川 弘子 名古屋市立大学大学院医学研究科公衆衛生学分野  
中田 佳世 大阪国際がんセンター

2017年12月にフランス・リヨンで開催されたIACRのICD-O-3の指導者用マスターコースに中田佳世先生(大阪国際がんセンター)が参加し、国際的な実務指導者課程を修めました。また、2018年3月にインドネシア・ジャカルタにて開催されたがん登録研修会では、松田智大先生(国立がん研究センター)、鈴木達也先生(国立がん研究センター)、中田佳世先生、中川弘子先生(名古屋市立大学)が、講師として参加されました。

第40回国際がん登録学会(IACR)が2018年11月13-15日に南米ペルー・アレキパにて開催されます。IACRの開催地は五大大陸を巡回しており、世界各地に足を運ぶ良い機会となります。特にペルーは日本の反対側でなかなか行く機会のない場所だと思いますので、ぜひ参加をご検討下さい。

<http://www.iacr2018.org/>



国際対がん連合(UICC)の2年に1回の世界がん会議(World Cancer Congress)は2018年10月1~4日にマレーシア・クアラルンプールにて開催されます。各国で対がん活動をする研究者や行政、患者団体など幅広い参加者層ががん対策に関してDiscussionします。がん対策に携わる方は一度参加をしてみてください。

<http://worldcancercongress.org/>

CONCORD studyでおなじみのロンドン大学衛生学熱帯医学校・がん生存解析グループのBernard Rachet教授が、2018年5月下旬~9月上旬までの間、大阪大学・環境医学(祖父江友孝教授)にて研究滞在(サバティカル)します。がん患者の生存率における社会経済指標による格差の要因分析に関する研究をされる予定です。8月3~5日に大阪大学にて開催される「公衆衛生セミナー:日本における健康の社会決定要因」において講義が予定されています。英国におけるがん登録資料の研究活用にご関心のある方は、ぜひご参加下さい。

<http://www.pbhel.med.osaka-u.ac.jp/>